

2024 年度 第 1 四半期 決算説明会 質疑応答要約

- 全体

Q) 売上収益・事業セグメント利益の社内計画に対する達成度は。

- A) 売上収益は、社内計画に対し上振れたが、為替影響を除くと実質下振れ。下振れの大半はマシナリー事業の産業機器によるもので、それ以外の事業はほぼ計画線で進捗した。
- 一方、事業セグメント利益は、為替影響を除いても上振れた。事業別では、P&S 事業と P&H 事業が経費の抑制や期ずれなどにより上振れ、マシナリー事業が売上の下振れにともない下振れた。

- P&S 事業

Q) 例年、P&S は第 1 四半期に利益が厚めに出る傾向があるが、今期もこの傾向は変わらないか。

- A) これまでの傾向として、第 1 四半期に利益が厚めに出ることが多く、その傾向に大きな変化はない見通し。

Q) レーザーの本体販売が振るわなかった要因に供給制約があったとのこと。それは、具体的に何か。正常化の見通しは。

- A) ベトナム工場近郊での他社の工場開設にともない、旧正月明けの従業員採用に例年以上に苦勞し、必要な生産量を確保できなかった。現時点ですでに問題は解消しており、第 2 四半期以降で挽回を図っていく。

Q) 一方で、インクジェットの本体販売は好調だった。その要因と今後の見通しは。

- A) インクジェットの製品本体は、特に新興国におけるタンクモデルが好調で、中南米や東欧で販売を伸ばすことができた。欧米、日本も堅調に推移した。市況については、地域ごとに強弱はあるものの、商品の競争力も評価され、全体として売上を伸ばすことができた。
- インクジェット市場における当社のシェアは高くなく、伸びしろがあると捉えており、引き続き販売拡大に注力していきたい。

Q) 消耗品の需要動向と、対計画での達成状況、今後の見通しは。

- A) 消耗品は、対前年同期で減少しているが、昨年度は欧州において値上げ前の駆け込み需要があったことなどが影響している。社内計画比では順調に推移しており、通期では対前年で微増となる見通しに変更はない。

Q) 足元の競争環境の変化と、販促費のかけ方を含めた今後の見通しは。

- A) 特に、カラーレーザーにおいて価格競争が厳しくなっている印象はあるが、競争環境に大きな変化はない。当社は第 1 四半期に供給制約で思うようにプロモーションを実施できなかったこともあり、第 2 四半期以降は販売投資も行い、本体販売台数を伸ばしていきたい。

● **マシナリー事業**

Q) 産業機器の受注水準に大きな回復が見られない中、今後の回復の見立ては。

A) 当社は中国依存度が高く、中国での回復遅れが全体に響いている。受注自体は 2023 年度第 1 四半期に底を打ち回復しているが、そのスピードが期待したほどに至っていないというのが実情。厳しい状況であることは事実だが、チャンスはまだあると考えており、中国を中心とした市況回復を待ちながら下期に挽回を図りたい。

Q) 地域や業界ごとの産業機器の需要動向はどうか。好調な分野はあるか。

A) 中国でも EV 関連で一部堅調なところはある。その他の地域では、インドの市況が好調で、比較的順調に受注が取れている。東アジアも堅調。台湾はここ数年市況が悪かったが、今年に入り回復している。一方で、中米は厳しくなっている。かつてのような需要の盛り上がりはなく、商談がなかなか進まない状況。

業界ごとでは、2 年前に同時 5 軸加工に対応した工作機械を投入して以降、新たに医療関係などのニーズを取り込むことができつつある。

Q) 工業用マシンが好調だが、今後の継続性はあるか。

A) 工業用マシンの市況は、以前と比べて好転している。特に、欧米向けの衣料品需要の回復にともない、東南・南西アジアにおける縫製工場の設備投資需要が戻ってきている。ただ、バングラデシュでの政情不安の影響などもあり、この先もこの調子で回復が継続するかは不透明。

● **ドミノ事業**

Q) カテゴリごとでは何が好調で何が不調なのか。

A) 売上については、製品本体は C&M・DP とともに前年同期を若干下回っている。一方で、消耗品は C&M・DP とともに堅調に推移している。地域別では、欧州が弱含んでいるが、米国・アジアは堅調。利益については、人件費や業務基幹システムの刷新費用などの販管費が増加し、減益となった。

以上